

平成 22 年度 終了評価書

研究機関 独立行政法人情報通信研究機構

研究開発課題 眼鏡の要らない3次元映像技術の研究開発
(3次元映像支援技術)

研究開発期間 平成 21 年度

代表研究責任者 榎並 和雅

■ 総合評価(SABCD の5段階評価) : 評価A

■ 総合評価点 : 48点/60点

(総論)

1年弱という短い期間ではあったにもかかわらず、基本計画書に沿った成果を出せており、一部においては成果を広く一般に公開することができた。

(コメント)

- 標準コンテンツ、変換ソフトについては、世間のニーズを幅広く取り入れるとともに、成果を広く一般に無償で公開しており、大いに評価できる。
- 3次元映像評価手法についても、世界トップレベルの研究を行っており、特に脳活動計測を用いた手法は世界にその類を見ず、今後のさらなる進捗が期待できる。
- この1年で、3次元映像技術に向けられる世間の目は大きく変わった。眼鏡なしの3次元映像技術が脚光を浴びる時期が来ることを強く期待する。

(1) 事業の目的および政策的な位置付け

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

(総論)

本事業は、3次元映像に対する世間の注目が高まる中で、さらに一步進んだ眼鏡なしの技術を目指すものであり意義は高い。眼鏡なしの3次元映像技術による国際市場の獲得及び新産業の創出を目指すべきである。

(コメント)

- 眼鏡ありの3次元映像(映画、テレビ)が急に注目を浴びるようになった中で、眼鏡なしの3次元映像技術について取り組むことは大変意義がある。
- 緊急的に取り組むことで、眼鏡なしの3次元映像技術の実用化を前倒しできることは、国際競争力を高めるためにも必要であった。
- 標準コンテンツの一般公開や、3次元映像評価手法の確立については、民間では取り組むことが非常に困難な項目であり、国が積極的に取り組むことについても妥当である。

(2) 研究開発目標

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

(総論)

当初の研究開発目標を達成することで眼鏡なしの3次元映像技術の普及促進に寄与することが可能であり、一部変動要素はあったが当初目標を維持できた。

(コメント)

- 本課題にて取り上げた目標は、眼鏡なしの3次元映像技術を確立していく上で、必ず通過しなければならない1ステップである。
- 標準コンテンツ及び変換ソフトウェア制作では、一般公開することこそ意味があると考えられ、妥当な目標である。
- 状況の変化(補正予算の見直し)により、一部契約額の減額が実施されたにもかかわらず、当初の目標をほぼ変えることなく達成できている。

(3) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

(総論)

関係するフォーラムの活動成果を効果的に反映させることでより有効な成果が得られている。また、研究開発委員会をうまく活用し、各技術の研究開発にうまくフィードバックできている。

(コメント)

- URCF(超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム)からの意見を幅広く取り入れることで、効果的な標準コンテンツ制作を図ることができている。
- 研究開発委員会を4回実施しており、研究全体の総括も問題なくできている。
- 研究開発委員会では、多くの有識者から時には厳しい意見も受けつつそれぞれの研究に反映できている、うまくマネジメントできていると言える。

(4) 研究開発成果の達成状況

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

(総論)

当初計画通りの成果が得られており、一部技術では顕著な成果が出ていると認められる。

(コメント)

- 3次元映像評価手法において、眼球運動の測定ができるのは評価できる。
- fMRI を利用した脳活動計測を活用することは世界で例のない研究なので、精力的に進めて欲しい。
- 脳活動計測と心理評価との関連づけを今後進めてほしい。
- コンテンツ制作についても当初計画通りの成果が得られていると認められる。

(5) 研究開発成果の展開および波及効果

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

(総論)

各技術とも、成果の実用化に向けて着実に進捗したとともに、標準コンテンツ等については一般無償配布が実施された。

(コメント)

- 標準コンテンツや変換ソフトの無償配布については画期的な成果と言える。
- HPを整備し、文字通り広く一般に公開したことは意義深い。
- 1年弱という期間を考慮すると評価に値する成果である。

(6) その他(広報活動 等)

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

(総論)

成果のアピールについては、一部で報道発表がなされよい反響を得ることができた。今後のさらなるアピールを期待する。

(コメント)

- 標準コンテンツ、変換ソフトの無償配布について報道発表がなされており、一部でも成果をアピールできていることは評価できる。
- また、無償配布に関する説明会を開催し、多くの方の注目を集めることができおり評価できる。
- 他の技術についても、成果を早い段階で世間へのアピールできることを期待したい。
- 研究開発委員会については、基本計画書に記載のとおり開催されている。
- 次世代・究極3次元映像技術とも研究開発委員会で意見交換がなされ、相互の進捗確認など連携がとれた。